

ゆるキャラ連携 知名度アップへ

県内窓口 新組織に一本化



県内のキャラクターが参加した新潟まつりのパレード。エヌキャラネット設立でキャラが集合する機会が増えそうだ
昨年8月、新潟市中央区

化などの活用方法が分らない」といった悩みがあるという。そうした声を受けてラボがネット結成を呼び掛けた。

同ネットは出演依頼の窓口を担うほか、キャラクターの管理方法や商品開発などを手助けする。事務局は「自治体のキャラがほとんどで無償の活動が多く、事務局としても持ち出しになる可能性が高いが、少しでも新潟の活力につながれば」と話す。

11日には最初の活動として、新潟市中央区のデスカ

ビッグスワンで行われるサッカーJ1アルビレックス新潟の試合前に20キャラが集結し、来場者との記念撮

影などに応じる。同ネット事務局は「情報の窓口を集約することで、イベントへの出演依頼が簡

単になる。力を合わせて活動の場を全国に広げ、本県の情報発信にもつなげた」とPRしている。

情報発信強化を目指す

同ネットの事務局は、新潟市江南区の印刷会社社員が立ち上げた「地域ブランド・キャラクターラボ」(同)が担う。事務局によるどの人気を背景に、県内自治体や民間企業などが次々にゆるキャラを生み出した。中之島観光協会(長岡

市)の「なかのん」、水の駅ビュー福島潟の「グイクイ」など旧市町村単位で活動するキャラも多い。キャラは自治体や観光協会などに所属するケースが多いが、現場には「活動の場を広げられない」「商品

県の「レルヒさん」や佐渡市の「フリカツくん」など県内各地で活躍するご当地キャラクターの窓口を一本化し、情報発信を強化する「エヌキャラネット」が発足し、11日から本格的に活動する。地域の枠を超えて「ゆるキャラ」が連携し、全国的な知名度のアップを目指す。